

平成24年度中央区にいがた安心ささえ愛活動支援事業補助金の申請状況について

資料 5

	事業名	事業の目的	事業内容	実施方法	住民等の参画及び共同	事業の継続的運営	事業の効果	補助対象経費	交付申請額
①	みんなの家 ととも	友だちのように、家族のようにみんながともに過ごせる「居場所」を作ることで、人と人が繋がれる場、子育て、介護家族を支える場、障がい児・者さんの日中活動の場とし、世代交流や障がいのある人への理解を促進する。	①交流支援サービス (生きずらさを抱える人への居場所提供) ②日中一時支援サービス (障がい児・者さん、小さなお子さんの日中一時預かり)	一軒家を借りて、ともの間、ミニ図書館、セレクトショップ、地域の貸し間を設けた「みんなの家」を作る。	地域住民の利用、ボランティアとしての参加や協力。 各種講座や教室開催の講師としてなど、地域住民の活躍の場を作る。 イベント等で多世代間交流、障がいの有無を越えた交流を行う。	利用者を増やし、利用料収入の安定させる。また、広報活動により、協賛会員を増やし、協賛会費による財源確保を図る。 福祉関係や教育機関との連携によるボランティア開拓、地域でのボランティア確保に努める。 NPO法人を目指す。	①つながりのある地域社会へ 地域に「人と繋がれる場」、「助けを求められる場」が生まれる。 ②子育て・介護家族支援 子育てや介護を地域で支える仕組みのひとつとして役割を担う。 ③地域交流の促進 世代や障がいの有無を越えた交流から地域で支え合う共生社会の構築。 ④障がい児・者の地域生活支援 地域で過ごせる居場所が増える。障がい者施設の製品展示などで障がい者に対する理解が深まる。 ⑤地域の茶の間の、子育て支援センター的、学童保育的役割を合わせ持つ場が地域にできる。	1,122,800	200,000
②	災害時要援護者・高齢者の安心・安全見守り隊(隊)	高齢者の社会的孤立を防ぐために、自治会ボランティアと小学生及びその保護者が一体となって家庭訪問等の巡回を行いながら、世代間交流と独居高齢者に対する「見守り」を行う。	①自治会住民からなる「見守り隊」による経常的な家庭訪問 ②定期的に「カラオケ教室」や「ダンスを愉しむ集い」等を実施 ③「敬老の日」にボランティアはじめ、小学生とその保護者が高齢者宅を訪問して世代間交流を図る。	①自治会住民からボランティアを募集 ②家庭訪問時に「チェックリスト」による安否確認を行う。 ③「歌う集い」「ダンスを愉しむ会」等で毎週「集会所」を利用する事業を行う。 「敬老を祝う会」を行う。	当自治会は70歳以上の高齢者が占める割合が多く、隣には必ず高齢者が居住し、昔から培われた下町気質のためボランティアに参加する方にも大きな負担を掛けることなく、気軽に「見守り」や「声かけ」を行える。	現在も一部実施している自治会事業等を発展的に継続させていくこと、また経費については自治会住民からこの事業の意義を十分に理解してもらい自治会財源から支出する。	①高齢者、特に高齢独居者の社会的孤立が改善される。 ②要援護者及び高齢独居者に精神的な安堵感を与えられる。 ③児童生徒の介在で世代間交流が増進される。 ④地域住民の愛情・互恵精神を涵養することができる。 以上4点から、地域住民の「地域の絆」「ささえあい」の意識がより高くなる。	406,140	200,000